

●2年生の皆さん、今年度最初の定期試験が終わり、ひとまずは「ほっ」としたところではないでしょうか。感染症の拡大の心配から思うように出来なかった部活動も、徐々に再開され、充実感を覚えている人もいるでしょう。もう少しで夏休み…。臨時休校もありましたが、どんな1学期だったでしょうか。6月16日(火)6限、各教室にておこなわれた「人権・同和教育に関するホームルーム活動」について、振り返りをしてみましょう。

## 『部落差別の歴史と現実から学ぶ』～「解放令」から学ぶ～

### ●江戸時代までの差別

歴史的には、室町時代の頃から、差別されていた人々がいたと言われています。この時代の人々は、死や自然災害など人間の力が及ばないことをおそれ、それらにかかわる仕事をしたり、特別な技能を発揮したりする人々を自分たちの仲間と異なる人ととらえて排除し差別しました。

江戸時代には、幕府が当時の人々の意識を利用して差別を制度化し、差別されていた人々の行動範囲や居住地、服装などを厳しく統制しました。その結果、人々の間に差別意識がいっそう浸透していきました。そのような中でも、差別された人々は、庭づくりや芸能など自分たちの仕事に誇りを持ち、技術を追求するなど、人々の生活や文化に貢献していました。

### ●新しい形の差別

明治時代に入り、政府は、「差別的な呼び方を廃止し、差別されていた人々の身分も職業も、その他の人々と同様に扱うこと」を発表します。のちに『解放令』と呼ばれるこの発表は、差別されていた人々に、大きな喜びとともに受け止められます。『解放令』は、江戸時代の身分制度を終了させ、差別解消に向けた取り組みの法的根拠となりました。しかしながら、明治政府の新たな政策に対する人々の不安や不満の高まりがそれまでの差別意識に拍車をかけ、『解放令反対一揆』とよばれる差別されていた人々に対するすさまじい攻撃を引き起こしてしまったのです。

写真

(上杉聰『これでわかった! 部落の歴史』解放出版社 より)

集落への放火や、乳飲み子にまでおよぶ殺人があったという事実は、「部落差別については中学校でも勉強したので知っていましたが、解放令反対一揆は初めて聞いて、こんなにひどいことが行われていたのかとびっくりしました。」と、初めて知って驚いたという人が多くいました。

(→裏面へつづく)

## ●自分のこととして考える

さて、この授業の目的は、部落差別の歴史そのものを正しく知ると同時に、そこから「私たちに出来ることは何か」を学びとることにありました。そこで、自分自身の「不安」や「不満」を他者にぶつけたり、誰かを攻撃することで怒りを発散したりすることがこれまでになかったか、自らの言動を振り返ってもらいました。なかに、「学校や部活動で疲れているときに話しかけられて家族にあたってしまって申し訳なかった。」「小学生の時に友達にぶつけてしまってすごく後悔したことがある。」など、反省の気持ちもこめて、正直に記してくれた人もいました。



## ●授業全体を通して

全体の感想には、現在でも各地でみられる問題（例えばアメリカの黒人差別問題など）を関連づけて考えたものや、「差別やいじめを許さない」という力強い意思表示が多くあり、皆さんの差別に立ち向かおうとする気持ち、差別の連鎖を断ち切ろうとする意欲が伝わってきて強く感動しました。

- ① 生きてると嫌なことや気に入らないことも多くあると思うけど、それを人にぶつけてはいけなくて改めて思いました。
- ② 今も差別やいじめがあり、罪のない人がひどいことをされているのでなくしたいと思いました。「周りの人がちゃんとすれば良い」という考えじゃなくて、「自分がそういうことをしない」というふうに考えていきたいです。
- ③ 人が傷つくようなことを言っている人は、言われている人の気持ちは分からないかもしれないけれど、だからこそ、言われた人の気持ちになって「それ言ったらだめだよな？」って相手に声をかけてあげようと思った。
- ④ 自分はあまり日常生活の中で差別をするようなことや見かけるようなことはあまりなかったけれど、それは自分の中で思っていることであって、他の人から見たら差別に見えるようなことをしてしまっているかもしれないと思いました。
- ⑤ いじめや差別は昔からたくさんあって、今も変わらず大きな問題と1つとして存在しているなと思いました。自分だけの利益や得だけを考えると相手の損を望んでしまい、差別・いじめにつながっていくと感じました。相手も自分も両方とも協力していくことで、差別・いじめが少しは減っていくと考えました。
- ⑥ 差別やいじめをなくす努力をする人がいても、必ずする人がいます。でもだからといって、いじめや差別をなくすことをあきらめたら本当になくならないし、少なくともならないし、どんどん悪化していくと思います。私たちひとりひとりの少しの気持ちの変化で、だれかの気持ちや、だれかの命が救われるのなら、絶対にその努力はやめたらいけないことなんだと感じました。
- ⑦ 人間の悪いところは、弱い存在を攻撃するところだと思います。尊い命を奪うことは絶対に許せないと思いました。これから僕に出来ることは、正しい情報を出来るだけ多くの人に伝えていくことだと思うので、今日、家族に話したいです。

振り返っていかがでしたか。2学期の人権・同和教育に関するホームルームは、部落差別のその後をテーマにしています。引き続き、ともに学んでいきましょう！（人権・同和教育推進スタッフ 森脇）

\*この便りは持ち帰り、保護者のかたと人権について話しあうきっかけにしてください。